2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月10日

上場会社名　日本マクドナルドホールディングス株式会社　　上場取引所　東
コード番号　2702　ＵＲＬ　https://www.mcd-holdings.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長兼最高経営責任者（ＣＥＯ）　（氏名）トーマス・コウ
問合せ先責任者　（役職名）執行役員 チーフＩＲオフィサー　（氏名）吉 田 修 子　ＴＥＬ　03-6911-6000

配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	309,911	△0.8	47,608	11.0	48,241	13.7	30,403	12.6
2025年12月期第３四半期	312,325	2.9	42,901	15.5	42,430	12.6	26,992	11.3

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　30,382百万円（12.6%）　2025年12月期第３四半期　26,972百万円（11.3%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	228.67	－
2025年12月期第３四半期	203.01	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	369,424	303,404	82.1
2025年12月期	364,473	280,467	77.0

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　303,404百万円　2025年12月期　280,467百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	－	0.00	－	56.00	56.00
2026年12月期	－	0.00	－		
2026年12月期（予想）				64.00	64.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	412,000	△1.1	57,500	8.0	57,500	10.5	36,500	7.6	274.52

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規　－社　（社名）、除外　－社　（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料９ページ「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
② ①以外の会計方針の変更　：無
③ 会計上の見積りの変更　：無
④ 修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	132,960,000株	2025年12月期	132,960,000株
② 期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	1,347株	2025年12月期	1,231株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	132,958,702株	2025年12月期３Ｑ	132,958,814株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書 …… 7
四半期連結包括利益計算書 …… 8
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 9
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社グループは、持続的成長と収益性の向上による企業価値の継続的な拡大を目指す中期経営計画（2025年度から2027年度）を2025年２月に公表いたしました。より多様化し高まっていくお客様の期待にお応えし、これからも「日本で最も愛されるレストランブランド」であり続けるために、地域に根差したフランチャイズビジネスの強化・拡大を通じて、さらなる成長を目指します。具体的な戦略として、「メニュー・バリュー」「店舗ポートフォリオ・デジタル」「サステナビリティ・ピープル」の３つの領域に注力し、継続的な売上高の成長と店舗収益性の向上を図るとともに、地域に根差した持続的な成長を実現してまいります。財務目標としては、システムワイドセールス年平均成長率４～６％、営業利益年平均成長率４～６％、営業利益率13%、ROE11%以上を設定しております。

当第３四半期連結累計期間におきましては、引き続きお客様の声を伺いQSCと利便性の向上に努め、マーケティングや店舗・人材等への投資を進めたことで、システムワイドセールスは前年同期比で増加となりました。また、既存店売上高も2015年度第４四半期から2026年度第３四半期まで44四半期連続で増加となりました。利益面につきましては、原材料価格等の店舗運営コストが上昇する中、システムワイドセールスの増加に加えて店舗オペレーションの効率化等により、営業利益は前年同期比で増加となりました。

中期経営計画に基づく取り組み状況は次のとおりです。

①　メニュー・バリュー

お客様のニーズに合わせた魅力的でおいしいメニューを全ての時間帯で展開するとともに、マクドナルドならではの定番メニューに加えて、日本の四季折々の季節感や楽しさをお客様にお届けできるような期間限定メニューを販売してまいります。また、お客様に常に価格以上の価値（バリュー）を感じていただくために、積極的な店舗投資や高いQSC、マーケティングプロモーションを通じて、お客様の店舗体験の向上を図ってまいります。

当第３四半期連結累計期間におきましては、毎年進化させている季節を感じる恒例の期間限定メニューに加え、多様なブランドやコンテンツとのコラボレーションを展開することで、お客様に楽しさをお届けするとともに、マクドナルドをお選びいただく機会を広げております。2026年２月に引き続きお客様にご満足いただける店舗体験を提供するために価格改定を行うと同時に、より魅力的な商品の提供を目的とした一部商品のリニューアルを実施し、人気の商品をおトクにする「トクニナルド」キャンペーンを展開いたしました。また、６月にはFIFAワールドカップオフィシャルスポンサー兼オフィシャルレストランとしてお客様に特別な体験をお届けし、７月にはマクドナルド55周年とポケモン30周年を記念した「ポケモン夏マック」を実施いたしました。さらに９月には、35周年を迎えた「月見ファミリー」が秋の風物詩として今年も多くのお客様からご好評をいただきました。加えて、お客様にマクドナルドを気軽にご利用いただけるよう、大型連休や夏休みの時期に合わせて「トクニナルド」キャンペーンを実施し、お得感のある施策を継続的に展開いたしました。これらの施策により、引き続き多くのお客様にご利用いただきました。

これからも、お手頃感のあるメニューやお客様にワクワク感をお届けできるようなマーケティングプロモーション、そして利便性の高いサービスを通じて、お客様に価格以上の価値をお届けしてまいります。

②　店舗ポートフォリオ・デジタル

積極的な新店開発とともにキャパシティ不足などの課題のある店舗を閉店し、お客様により良い店舗体験をお届けできる店舗を増やしてまいります。また、これまでモバイルオーダーやデリバリー、セルフオーダー端末の導入等を通じてお客様の利便性を大きく向上させてまいりました。そして、店舗従業員もデジタルの活用を通じて効率的なオペレーションを行い、ホスピタリティの高いサービスをお客様に提供することが可能となりました。引き続きデジタルとピープルの融合を全店舗で加速させお客様と従業員の店舗体験の向上を図るために、リモデル（既存店改装）を進めてまいります。2025年からの３年間で、店舗数は100店舗以上の純増、リモデルは1,000店舗以上を目指し、店舗ポートフォリオの最適化を進め、１店舗当たりの売上高と収益性の向上を図ってまいります。

当第３四半期連結累計期間におきましては、新規出店が59店舗、閉店が37店舗、リモデルは287店舗となりました。店舗ポートフォリオの最適化は、中期経営計画に沿って順調に進捗しております。また、デジタル施策も着実に進んでおります。「Myマクドナルド リワード」を含むデジタル基盤は拡大し、デジタル経由の売上拡大に加え、お客様とのつながりをさらに深めております。

区分	前連結会計年度末	新規出店	閉店	区分移行		当第３四半期連結会計期間末
				増加	減少	
直営店舗数	705店	17	△10	2	△63	651店
フランチャイズ店舗数	2,320店	42	△27	63	△2	2,396店
合計店舗数	3,025店	59	△37	65	△65	3,047店

③　サステナビリティ・ピープル

おいしさと笑顔を地域の皆さまにお届けするために、「地球環境のために」「安心でおいしいお食事を」「働きがいをすべての人に」「地域の仲間にサポートを」の４つの重点領域にフォーカスした活動を展開してまいります。

地球環境に配慮した施策として、2050年までのネット・ゼロ・エミッション達成に向けて、コーポレートPPAの導入エリア拡大や、店舗空調設備の更新による電力使用量削減等に取り組み、環境負荷低減とコスト最適化の両立を図っております。加えて、「フィレオフィッシュ®」にMSC認証スケソウダラを使用し、持続可能な水産資源の利用促進に引き続き取り組んだことが評価され、2026年９月に「MSCジャパン・アワード2026」においてフードサービス部門賞を2024年から３年連続受賞いたしました。また、コミュニティ活動では、今年も10月のロナルド・マクドナルド・ハウス支援の「青いマックの日」を通じて、全国の店舗で地域社会とのつながりを深めるとともに、支援の輪を広げてまいりました。

マクドナルドは、創業以来「ピープルビジネス」を掲げ、ビジネスの基盤となる従業員を最も大切な資産として捉え、誰もが活躍できる働き方と、より働きやすい職場環境の構築に取り組んでおります。当社は2026年３月に、従業員の多様な働き方を支えるインクルージョンの取り組み等が評価され、「なでしこ銘柄」に選定されました。また、マクドナルドクルーのOB/OGとの継続的なエンゲージメントを経営上の重要な人的資源と位置づけ、スポットワークプラットフォーム「カムバっ！クルー」を導入し、ライフステージの変化に応じた柔軟なキャリア継続支援に取り組んでおります。日々変化するお客様のニーズをしっかりと把握し、より良い店舗体験をお届けするためには、クルーをはじめとするマクドナルドシステムに関わるすべての人のエンゲージメントが必要不可欠です。引き続き、人材への継続的な投資を通じて、すべての従業員に成長の機会を提供し、誰もが活躍できるインクルーシブな職場環境を実現してまいります。

上述の施策の結果、当第３四半期連結累計期間の既存店売上高は6.0%の増加となりました。システムワイドセールスは7,147億44百万円（対前年同期比541億80百万円増加）、売上高は3,099億11百万円（同24億13百万円減少）、営業利益は476億８百万円（同47億７百万円増加）、経常利益は482億41百万円（同58億11百万円増加）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は304億３百万円（同34億11百万円増加）となりました。

（注）１．既存店売上高とは、13ヶ月以上開店している店舗の合計売上高です。
２．システムワイドセールスとは、直営店舗とフランチャイズ店舗の合計売上高であり、四半期連結損益計算書に記載されている売上高と一致しません。
３．当社グループの事業はハンバーガーレストラン事業単一であるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

当第３四半期連結累計期間に係る売上高と売上原価は次のとおりであります。

（売上高と売上原価の内訳）　（単位：百万円）

		前第３四半期連結累計期間		当第３四半期連結累計期間		対前年同期増減	
		金額	原価率	金額	原価率	金額	原価率
直営店舗売上高		204,623	－	187,257	－	△17,366	－
直営店舗売上原価		180,117	88.0%	163,055	87.1%	△17,062	△0.9%
（内訳）	材料費	76,239	37.3%	71,078	38.0%	△5,161	0.7%
	労務費	52,425	25.6%	45,809	24.5%	△6,616	△1.2%
	その他	51,451	25.1%	46,167	24.7%	△5,284	△0.5%
フランチャイズ収入		107,702	－	122,654	－	14,952	－
フランチャイズ収入原価		65,101	60.4%	75,002	61.1%	9,900	0.7%
売上高合計		312,325	－	309,911	－	△2,413	－
売上原価合計		245,219	78.5%	238,057	76.8%	△7,161	△1.7%

（注）１．上記の直営売上高には、フランチャイズ店舗分は含まれておりません。
２．フランチャイズ収入の売上金額は、ロイヤルティー、賃貸料、広告宣伝費負担金収入、店舗運営事業の売却から生じる利益等であります。

当第３四半期連結累計期間に係る販売費及び一般管理費は次のとおりであります。

（販売費及び一般管理費の内訳）　（単位：百万円）

		前第３四半期連結累計期間		当第３四半期連結累計期間		対前年同期増減	
		金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比
販売費及び一般管理費		24,204	7.7%	24,245	7.8%	40	0.1%
（内訳）	広告宣伝費及び販売促進費	5,596	1.8%	4,905	1.6%	△691	△0.2%
	一般管理費	18,607	6.0%	19,340	6.2%	732	0.3%

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の流動資産は1,056億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ32億22百万円の減少となりました。これは、現金及び預金が82億89百万円減少、有価証券が30億円増加、売掛金が17億72百万円増加したことが主な要因です。

固定資産は2,637億36百万円となり、前連結会計年度末に比べ81億74百万円の増加となりました。これは、投資その他の資産が41億26百万円増加、有形固定資産が40億59百万円増加したことが主な要因です。

流動負債は597億66百万円となり、前連結会計年度末に比べ175億75百万円の減少となりました。これは、その他が99億95百万円減少、未払法人税等が52億55百万円減少したことが主な要因です。

固定負債は62億53百万円となり、前連結会計年度末に比べ４億９百万円の減少となりました。これは、資産除去債務が３億５百万円減少したことが主な要因です。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の通期業績予想につきましては、2026年８月７日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「2026年12月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	71,422	63,132
売掛金	26,012	27,784
1年内回収予定の長期繰延営業債権	175	14
有価証券	2,000	5,000
原材料及び貯蔵品	1,511	1,191
その他	7,795	8,571
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	108,910	105,688
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	108,133	111,303
機械及び装置（純額）	16,965	15,646
工具、器具及び備品（純額）	9,326	8,299
土地	29,087	30,111
リース資産（純額）	128	35
建設仮勘定	1,790	4,094
有形固定資産合計	165,431	169,491
無形固定資産		
のれん	920	428
ソフトウエア	9,514	9,995
その他	694	694
無形固定資産合計	11,129	11,117
投資その他の資産		
投資有価証券	20,020	15,027
長期貸付金	9	9
繰延税金資産	9,536	8,758
敷金及び保証金	43,053	44,626
その他	7,658	15,985
貸倒引当金	△1,278	△1,279
投資その他の資産合計	79,000	83,127
固定資産合計	255,562	263,736
資産合計	364,473	369,424

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	748	343
リース債務	88	31
未払金	25,848	24,351
未払費用	8,288	7,664
未払法人税等	12,143	6,887
未払消費税等	3,313	2,495
契約負債	6,750	8,285
賞与引当金	2,531	2,119
棚卸資産処分損失引当金	10	22
資産除去債務	57	－
その他	17,560	7,564
流動負債合計	77,341	59,766
固定負債		
リース債務	68	29
役員退職慰労引当金	62	－
退職給付に係る負債	973	872
資産除去債務	5,093	4,787
繰延税金負債	45	35
再評価に係る繰延税金負債	311	311
その他	108	216
固定負債合計	6,663	6,253
負債合計	84,005	66,020
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,113	24,113
資本剰余金	42,124	42,124
利益剰余金	218,302	241,260
自己株式	△3	△4
株主資本合計	284,536	307,493
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	△4,195	△4,195
退職給付に係る調整累計額	127	106
その他の包括利益累計額合計	△4,068	△4,089
純資産合計	280,467	303,404
負債純資産合計	364,473	369,424

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	312,325	309,911
売上原価	245,219	238,057
売上総利益	67,106	71,854
販売費及び一般管理費	24,204	24,245
営業利益	42,901	47,608
営業外収益		
受取利息	197	259
受取補償金	89	469
受取保険金	222	243
その他	552	293
営業外収益合計	1,061	1,265
営業外費用		
支払利息	6	3
貸倒引当金繰入額	1	0
店舗用固定資産除却損	1,136	416
その他	387	211
営業外費用合計	1,532	632
経常利益	42,430	48,241
特別利益		
固定資産売却益	128	－
特別利益合計	128	－
特別損失		
固定資産除却損	515	861
減損損失	484	461
その他	－	12
特別損失合計	1,000	1,335
税金等調整前四半期純利益	41,558	46,906
法人税等	14,566	16,502
四半期純利益	26,992	30,403
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,992	30,403

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	26,992	30,403
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△19	△20
その他の包括利益合計	△19	△20
四半期包括利益	26,972	30,382
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,972	30,382

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	13,601百万円	13,874百万円
のれんの償却額	258百万円	246百万円

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）及び当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

当社グループの事業は、ハンバーガーレストラン事業単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。